



最先端！大型3D空中ディスプレイ

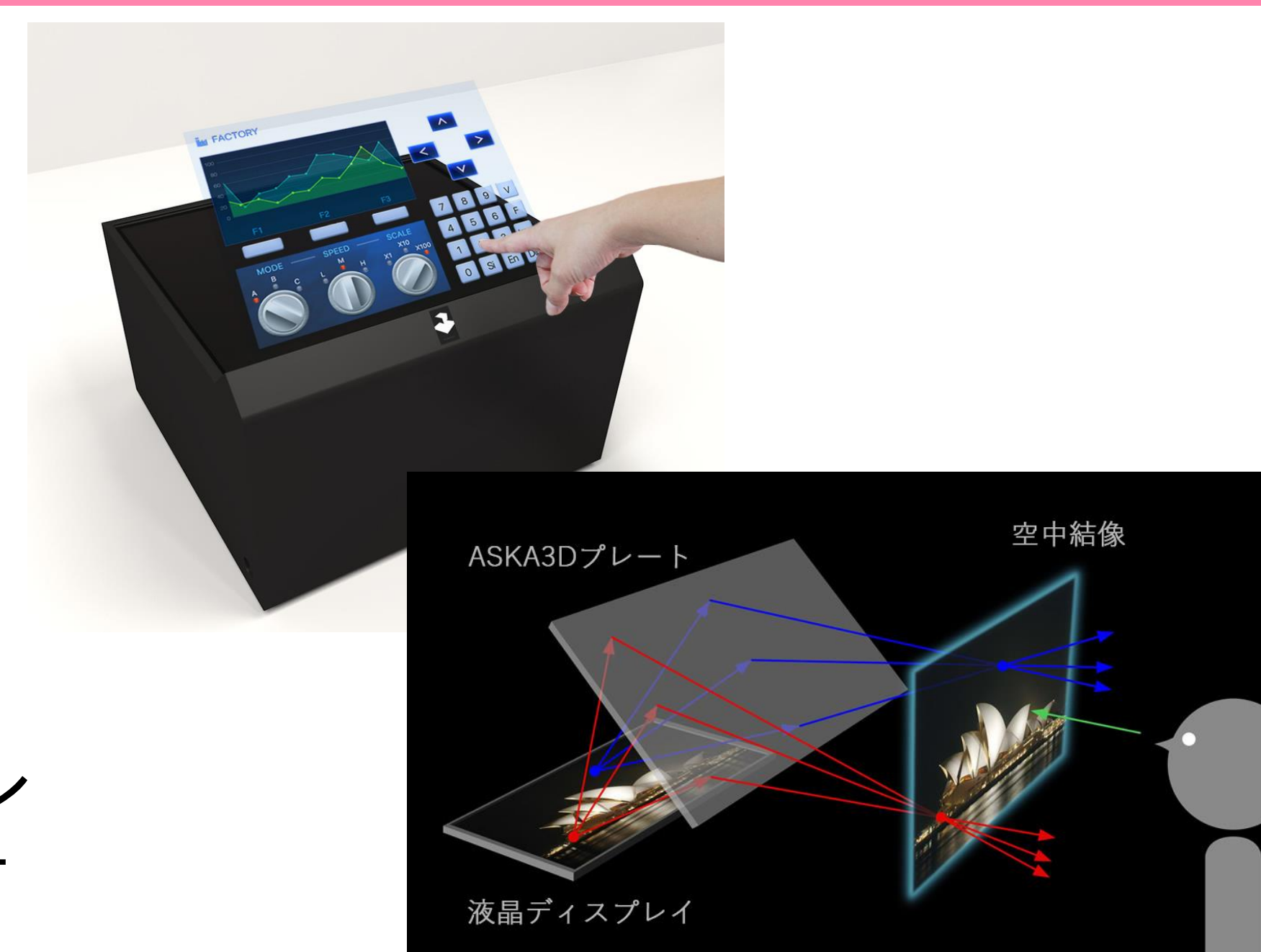
～AIホログラムとの対話体験～

01 技術開発の背景・目的

空中立体結像装置は空中に映像を浮かび上がらせることができる空中ディスプレイを立体（3D）に対応させた装置で、3次元映像空中に投影することができるが、等身大の人を投影できるサイズ以上で実用化された例はまだない。

似たような装置として、3Dディスプレイが挙げられるが3Dディスプレイは画面の中に3次元映像が見えるものであり、3次元映像枠の外に投影することはできない。

そこで、本研究では等身大で人を投影できる大型空中立体結像装置の試作を行う。



空中ディスプレイイメージ
アスカネット社公式HPより引用

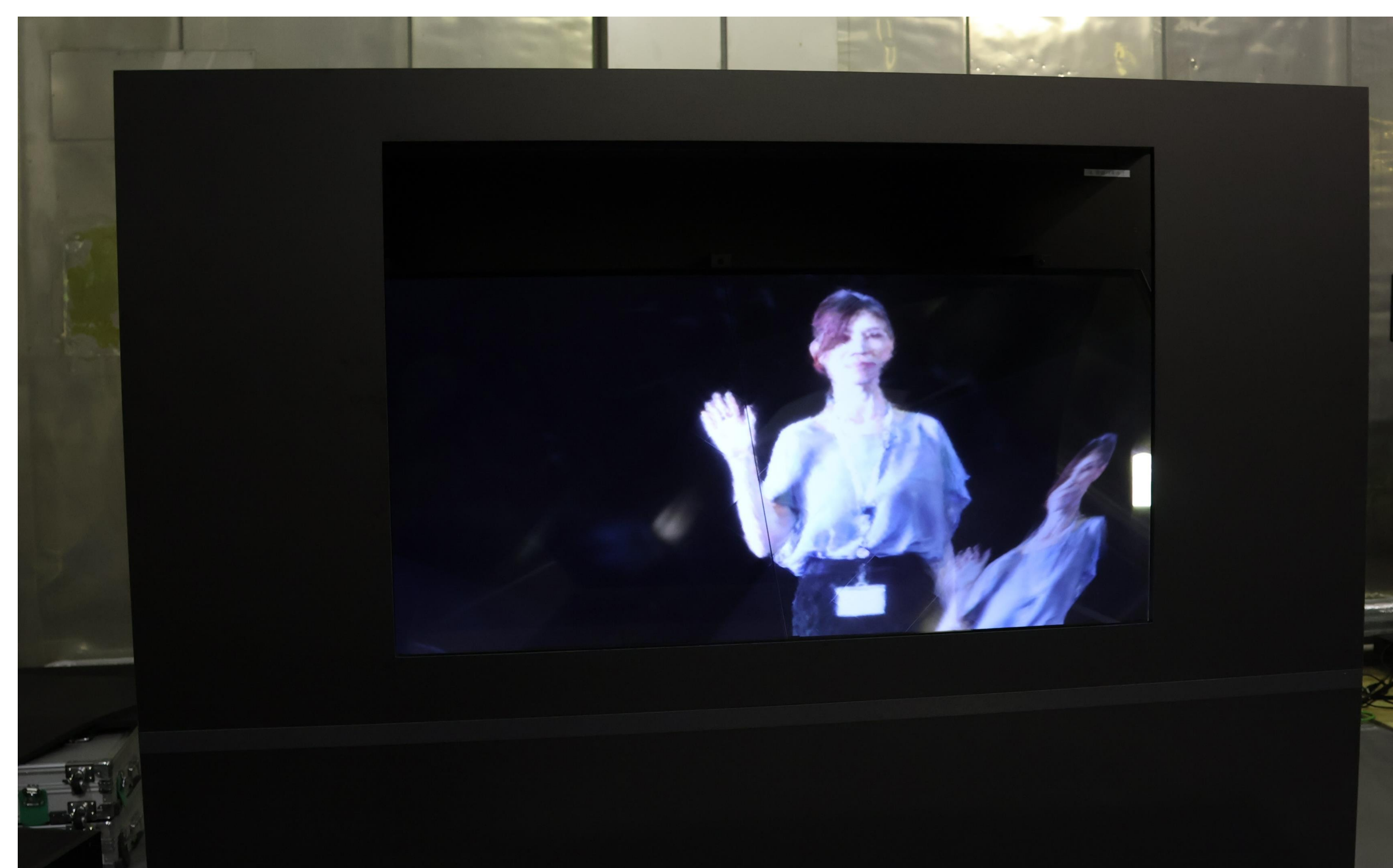
02 特長・用途

○特長

- 空中に3次元映像を浮かび上がらせることが可能
- 等身大サイズの人を投影可能
- 複数人同時に見ることが可能
- 裸眼で見ることが可能

○用途

- ・ AIホログラムによる無人の受付
- ・ ホログラム映像による遠隔対話



試作した大型3D空中ディスプレイ

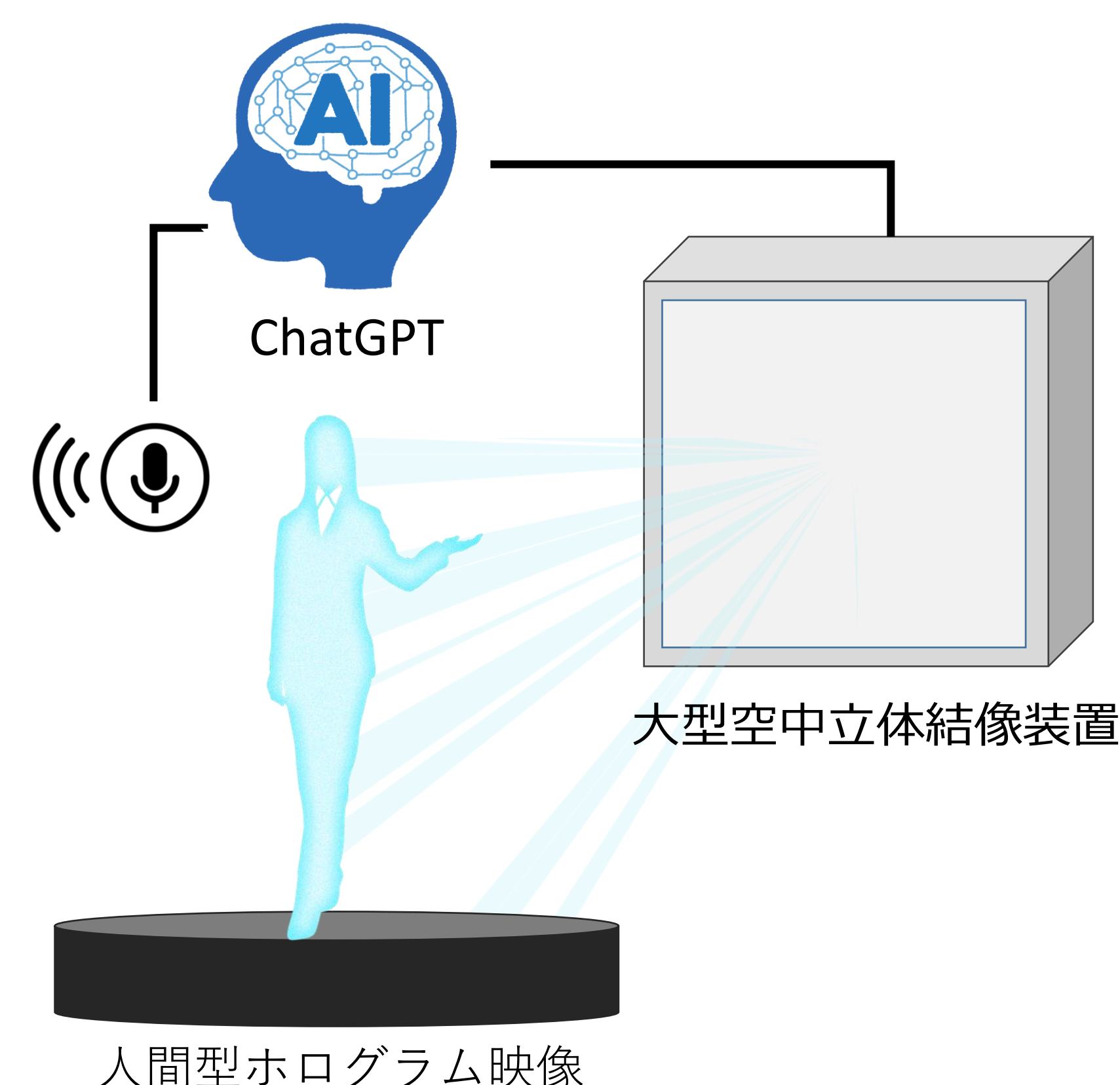
03 社会実装に向けた取り組み

○展示の内容

- ・ 等身大サイズの人間型3次元ホログラムを試作装置で投影
- ・ AIを搭載した人間型ホログラムと音声による対話を行う
- ・ AIは生成型AIであるChatGPTを活用

○今後の展望

- ・ 映像と音声の連携、AIによる案内や支援の実現
- ・ 視野角の拡大



大型空中立体結像装置による
人間型ホログラム対話の構成イメージ

04 研究者より

今後、様々な分野で3Dテクノロジーが活用されると予想されます。

そういった技術革新をいち早く取り入れ、「当たり前」していくことが研究者としての役割だと考えています。

中部電力（株） 技術開発本部
先端技術応用研究所



情報技術グループ
岡本主任